

あこがれだった記載台

西臼杵支会代表 長澤 美元

7年で5回。私が選挙権を与えられてから7年が経ち、選挙に行った回数は5回。そのうち強い思いをもって投票した回数は0回です。選挙権は与えられているのだから、批判をする前に投票をするべきだと思ってよくわからないまま投票に行きました。これでも私の一票は投票率に反映されて報道されます。

両親は幼い私を連れて選挙に行っていました。おかげで私は選挙というものが何かはわからずとも、身近に感じて育つことができました。両親の後ろから背が低い私には見えない、あの区分けされたブースがうらやましかったことを覚えています。

社会人になり東京で生活を始めて4年目に差し掛かる時、新型コロナがやってきました。客室乗務員の私の仕事は中国路線から感染対策が始まりました。国内線にも多くの中国籍のお客様をご搭乗されていましたが、感染対策はしばらくなく、得体の知れないコロナというウイルスに私も感染して死んでしまうのか、なんて考えたこともありました。2020年度のフライトは、月に0から10日程になり、誰とも会えず、テレビとスマホが友達になりました。そのテレビの向こうでは小池都知事や今は亡き安倍首相が毎日会見をしていました。様々な批判がありましたが、休みなく働いていることは明らかで、私には何もできない無力さと、政治家の責任の大きさを感じた出来事でした。この時から徐々に国や行政の取り組みに興味を持ち始めた気がします。

日本はとても平和な国です。戦争もないし、最低限の生活を保障されています。フライトで初めてインドのデリーに行った時、物乞いをする子供に出会ったこともあります。たった1日の滞在で赤痢になる乗務員は珍しくなく、乗務員の荷物の半分は水と食料です。生ものはおなかを壊す危険性があるので、フルーツやサラダなど、お店の食べ物も自分で見極める必要があります。日本で考えたことがありますでしょうか。

そして今、私の地域おこし協力隊としての日之影での生活も2年になり、生きていくことの素晴らしさと、大変さを実感しています。これまでスーパーに行けばあった野菜やお米は、ありがたくも厳しい自然を相手に育ててくださっている人がいることをこの目で見て、今まで当たり前すぎて何とも思っていなかったことにも、心からありがたい。と思うことが増えました。初めての公務員の立場に、議会や選挙を身近に感じるようになり、国の制度や補助金など、これまで触れたことのない金額の話を目にして驚きました。国の方向性と地方の現状には差があり、より国民の生活に近い自治体の考えで、税金の使い道を決められな

いのかと思ったこともあります。このような日之影での経験は政治に対する私の価値観を大きく変えました。

物価は高騰しても所得は上がらないのが今の日本の現状です。しかし私は日本に住む以上この国のルールの中で生きていかなければならないので、政治には参加していきたいです。日本は平和だからこそ、本当はもっと政治に参加する時間を割けるはずなのに、私も含め、政治に対する当事者意識が低いと思います。なんとなく過ごしていればある程度の生活ができるからなのか。平和の代償でしょうか。

「政治に参加した！」といつになったら胸を張って言えるようになるのか。私が幼い頃うらやましいと思っていたあの記載台で、思いを込めた一票を書ける若者がどれだけいるのでしょうか。ただ批判するだけの国民にはなりたくありません。平和な日本だからこそ、選挙権が与えられる18歳になるまでの間に政治、選挙について学び、考える時間を作り、持つことが、今後の日本の未来に繋がるのではないかと考えています。